

2021年3月期 第2四半期決算に関する主なご質問

- Q: 今回、通期業績予想を上方修正しているが、Q2（3ヶ月）のCOVID関連個別開示項目後営業利益が25億円だったことを踏まえると、下期（6か月）の同利益予想が30億円というのは保守的ではないか？
- A: 上期は当初想定より良い結果となりましたが、下期は事業環境の不確実性も考慮し、ある程度保守的にみています。また上期はコスト削減効果が大きく現れましたが、下期は需要回復に伴い操業度が上がることで上期ほどのコスト削減メリットが発現しにくい面もあります。
- Q: 11月に入って欧州で再度ロックダウンが始まっているが、その影響は予想に織り込んでいるのか？またその場合、Q1の時のような大規模なロックダウンを想定しているのか？
- A: 欧州各地でロックダウンが長期化すれば、影響が出る可能性が高いとみていますが、Q1のように欧州全域で工場の生産が止まるというような大規模な状況は想定していません。現時点で現地の自動車メーカーが生産を止める話はありませんし、域内の建築工事も止まっていません。
- Q: 個別開示項目を含めた通期の損益見通しを未定としているが、COVID関連以外に下期にどのような個別開示項目の発生を予定しているのか？
- A: 人員削減に伴うコストや資産・事業売却に伴う益を想定しています。損益影響については、個々の案件が明らかになった段階で開示する予定です。
- Q: 事業構造改革の実施により2022年3月期の黒字転換を目指すというのは、営業利益ではなく当期純利益の黒字ということか？また、自己資本減少のリスクが依然としてあるが、財務的な手当てをどのように考えているのか？
- A: 2022年3月期には当期純利益の黒字転換を目指しています。まずはコスト削減等の実施により収益力を改善し、加えて資産・事業の売却を含む対策も引き続き検討・実施していく予定です。
- Q: 今後数年間を目途として、抜本的な事業構造改革に取り組むということだが、決算説明資料(P18)に示している3つの各施策の実施タイミングを教えてください。
- A: 今後2～3年を視野に事業構造改革に取り組んでいきますが、人員削減など短期間で行うものと、工程の改善やロボット化など、少し時間がかかるものもあります。成長分野の加速についても、数年の時間軸で考えています。
- Q: 欧州建築用ガラス市場で販売価格は下げ止まったとのことだが、これはQ2の需要急回復が要因か？継続性のある価格上昇とみていいのか？
- A: Q1においてはCOVID-19の影響を大きく受け需要が激減しましたが、その後の需要の急回復で、特に南米・欧州では現在はガラスが足りない状況になっており、それに伴い価格も改善しています。この傾向は2～3か月続くとみています。それ以外の地域では、販売価格動向には大きな改善はみられません。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスの売上は引き続き好調とのことだが、建築ガラス事業に占める構成比や、上期業績への貢献度は？
- A: 太陽電池パネル用ガラスの売上は建築用ガラス事業の10%強を占めています。今期の計画では年間5%から10%の数量の伸びを想定しています。

以上